

NPO 法人ごっこ屋本舗に参加しませんか？

◎ごっこ屋本舗ってどういう NPO？

最近巷を騒がしている NPO 法人。

平成 26 年 9 月現在で、全国で 4 万 9 千を超える法人数があり、未だ年々その数を増やしています。

NPO 法人は福祉、教育・文化、まちづくり、環境、国際協力などの分野で社会に役立つ活動を行う事が法人としての使命ですが、社会福祉事業の浸透によって二つの方向性に分かれています。

1. 社会事業をフィールドに主に収益を追求する事業型モデル。
2. 市民活動の延長線上にあって、活動基盤を構築し認知度を上げ、より参加者やフィールドを広げる為に法人化する市民参加モデル。

私たちごっこ屋本舗は、多くの仲間を集めて活動すること、そして活動に個人の負担が少しでも軽減されるようにとの思いで法人化を行った市民参加モデルの NPO 法人です。

◎ごっこ屋本舗の目指すものは？

○手を取り合ったふるさと創り

大きな目標は、今の時代に見合った「新しいふるさとの構築」です。

太古より自然と共生する生活スタイルを続けてきた日本人。

現代では、全く自然と接しない都市部と、自然が残りつつも衰退していく地方に分かれて生活を営んでいます。

そこには現代社会が抱えるひずみがあります。

私達は都市部と地方農山村(私たちはふるさと地域と呼んでいます)の有志で手を取り合い、新しいふるさとの姿を模索してそのひずみを少しずつ取り除いていきたいと思っています。

○ごっこを楽しむ———チャレンジと創意工夫

全てが手探りの取り組みです。

思いついたことを仲間とともに試行錯誤しながら進める。

仲間と助け合い、楽しみながら、創意工夫を繰り返す事で経験や結果が付いてきます。

過程を楽しむのも私達の活動の醍醐味です。

ごっこ屋本舗の「ごっこ」という言葉には、「ごっこ遊び」の様に各々で役割を演じつつ創意工夫を重ねて仲間みんなで楽しみたいという思いが込められています。

新しいふるさとを創りたいという大きな目標と、「ごっこ」という言葉に託したモットー。

この両輪が噛み合う事で、参加者も何かを得られ、そして後の世代に何かを残して行けると考えています。

◎何故「ふるさと」にこだわるのか

終戦後の荒廃から昭和の経済成長を経て平成の時代に到り、町には物があふれかえり、物質的には満たされている社会になっています。

国内では全ての人がある一定の生活レベル内で十分生きていける時代です。

ところが後ろを振り返ると、さまざまな社会問題が発生しています。

経済偏重と合理性の名の下に都市部の開発と集中が過度に進み、自然との調和・周囲との協調という日本人が本来築いてきた文化風習の軽視が行われ、それが道徳観倫理観へも波及している事がその原因の一端と考えます。

私達は、この現状を少しでも改善するキーワードが日本人の心の拠り所「ふるさと」にあると考え、今の日本社会に適応したふるさとの在り方、既に都市部に定住してふるさとを失った人たちに新たなふるさとを提供する事によって、今日本に住む人たちやこれからの世代の世代の為に少しでも役に立てばと考えます。

◎子供の情操教育にふるさと地域(地方農山村)の活用を

今都市部になっている地域は経済効率を優先とした形に姿を変えていっています。

マンションやビル等集約型の建物が並び立ち、少ない土地の効率利用を重ねていっており、その地域には全てのサービスや機能が集約されております。人が働く事を前提とした機能としては、申し分ない形になっていると言っても過言ではないでしょう。

では、他方、子供を育てるという観点、家庭を築くという観点で見ると都市部が魅力的なのでしょうか。

私達が子供時代を過ごした数十年前には都市部の周縁の住宅地でも十分な空き地や自然が残っていました。

そこには何も無く、そして子供達の中でルールが決められ、色々な遊びが創られて自由に過ごしていました。

ある時はボール一つで一日中仲間達と遊び、またある時は昆虫やカエル、ザリガニ等と戯れ例え物が無くても、土の地面と石だけでも多くの時間を過ごせたものです。

その中で人と人との接し方や繋がり、集団での統率や役割、義務等も自然と学んでいったものです。

ところが、今の都市部にはそれを培う場所がありません。

子供達は表に出ずお仕着せの遊びゲームなどに興じ、狭く希薄な人間関係の中で、他人と自分の距離感が上手くつかめなくなり、創意工夫をするという喜びも失っています。

また、日本人が本来身に着けていた自然との共生という感覚すら培う機会が失われています。 ”あそび”とは、さまざまな”まなび”をする機会であるという事を思い起こしてみる時期ではないでしょうか。

今のふるさと地域にはまだその姿が残っています。

都市部の子供もそういう部分に少しでも触れてもらえるようにするのも私達の願いです。

◎ふるさと地域もこのままではいけない！

近年、東京一極集中化に対するしわ寄せの為に日本経済にも発展する都市部と衰退する地方という明暗が明らかになるに従い、地方をどうするかという議論が盛んになされています。地方創生の掛け声の下に、これから膨大な予算が投じられるかもしれません。

でも、旧来から行政主体のてこ入れ策は数々行われてきて予算が投じられてきている中、同様の手法で今衰退している地方が活気を取り戻すとは思えません。

ふるさと地域が衰退し失われる前に、その良さを残しつつ発展する方法を考える必要があります。

私達がふるさと再生ではなく「新しいふるさと創り」をテーマにした部分はそこにあります。

今のふるさと地方の人たちにとって、まず優先する内容は地域の経済発展ではなく、従来からのコミュニティ内のルールの継承であって、新たな枠組みでの発展を目指す発想が無いのです。

更に加えるなら、ふるさと地域の中に住んでいるが故に、ふるさと地域自体の特長をつかみかねている部分もあります。

おそらく、都市的なものを目指そうとしてインフラ整備するものの都市部より不便な故に思うままの発展を得られないという、各地で起こっている残念な結果を更に積み重ねていだけでしょ。またはふるさと地域内の自画自賛や他の地域の成功例をそのまま持ってきてもなかなか上手く行かないでしょう。

ふるさと地域の本当の価値を見出せるのは、ふるさと地域外に住む都市部住民なのです。

ふるさと地域の良さを残して成功する為には、都市部とふるさと地域の人的な、そして経済的な交流を目指す事が、共存共栄の近道だと考えます。

◎ごっこ屋は契機であり苗床に

共存共栄を目指し、人的な交流を行う為には、まず多くの方に今のふるさと地域の現状を知っていただく事が必要です。

このNPOに参加する人たちだけでなく、もっと広く知ってもらい、身近に感じてもらう事が入り口だと考えます。

法人立ち上げに際し、資金的にも人的にも無い中でいかに身近に感じてもらえるようにするか、そして、いずれその地域に足を運んでもらえるようになるかを考えました。

第一歩としての歩みはすぐには結果が得られないかもしれませんが、より多くの方に参加していただく為の契機として、そして集まった仲間のアイデアを実行していく為の地盤として、いくつかの事業を予定しています。

また、このNPOに参加する事を契機にふるさと地域を支える事、それ自体をNPOとしてではなく自らの仕事として事業化する方が現れていくのも期待しています。

(このNPO自体がふるさと地域の経済活性に繋がる事業を行う事やふるさと地域に関する中小個人事業者をサポートできるあらゆる範囲の活動が可能になっております)

◎ごっこ屋本舗の活動内容

ごっこ屋定期市・祭りの開催

ふるさと地域の事業者に物産を販売する場所を提供し、都市部住民にふるさとの恵みをお届けします

千里中央 上新田天神社(平成27年4月より例月開催予定)

奈良市内、京都市内等、開催場所確保次第、順次開催予定

ふるさと体験会

会員・関係者を対象にふるさと地域での各種体験を行い理解を深めます。

春季:(京都京北地区)山菜摘み体験

子供の情操教育に加え、都市部の大人にも得がたい経験を体験できます。

その他構想・模索中の活動

- ・米粉パン普及活動…定期市への誘致を中心にした普及活動による米食拡大運動
- ・ふるさと子育て住宅…「子育ては庭のある家庭で」を目標に都市通勤可能な安価住宅の実証
- ・自転車道の駅普及支援
- ・民泊(農村他民家宿泊)体験普及支援
- ・日本野あそび協会、北山杉に写す京都北山展等各団体との連携活動
- ・その他、参加者の提案を随時採用もしくは支援

簡単な説明会を兼ねた定例会合を例月第二土曜日にて、上新田天神社(豊中市上新田:モルレー千里中央駅より10分、案内板あり)にて行っております。

ご興味の方は事前にご連絡の上、お気軽にご参加下さい。

お問い合わせは下記に

特定非営利活動法人 ごっこ屋本舗(事務局担当 椋本)

大阪府茨木市中穂積1-1-28 (電話 070-6506-1973)

担当 e-mail : mukumoto@gokko-ya.com